

提言テーマ

国際レベルの医療環境整備を核とした
イノベーションの創出

平成24年8月3日

委員：蔵田 和樹

本提言のサマリー

- ✓ 成長戦略のトリガーとして「医療&周辺産業」を位置づける
- ✓ 医療&周辺産業を“コスト分野”ではなく“プロフィット分野”へとパラダイムシフトを促進する
- ✓ 製造業が長年に亘って『蓄積してきた技術力』、『医学分野における放射線影響研究成果・知見』、『“ひろしま”の国際的ネームブランド』といった“広島県の高い潜在能力”(ポテンシャル)を成長産業へと繋げるインフラ(物理的な環境)を整備していく
- ✓ 県内には都市部(特に二葉の里周辺)にある、十分な用地などに加え、同地で既に計画進行中の医療リソースの集約化&高度化をテコに活かすことが可能
⇒ **広島県には「イノベーションの素地&アドバンテージがある」**
- ✓ 国際水準の医療環境整備＝「ブランド化」を通じ、産業成長のみならず雇用増加、イノベティブ人材の流入、県民の安心・安全の質向上も実現可能となる

資料編
①②③参照

具体的には

- ◆ 二葉の里地区に高度医療を担い、国際レベルを目指した医療機関群、いわゆる“メガホスピタル／医療産業クラスター”を段階的に整備する。
- ◆ メガホスピタル周辺に、医療関連産業(医薬・医療機器)の研究開発部門(企業系R&Dセンター)を誘致する。
- ◆ 広島都市部に所在する既存の医療・介護サービス事業拠点のリ・モデリング促進により、プライマリー・ケアの充実した「住居系施設」を充実させる。

本提言の背景となる現状(課題)認識

区分	キーワード	現状(課題)に対する認識
アドバンテージ	当県が持つ潜在能力『強み』	<ul style="list-style-type: none"> ▶ 広島駅北口(二葉の里)地域が持つ、将来を見越したアクセス面での優位性や発展可能性は極めて高い。 ▶ 県内製造業が長年培ってきた技術力、開発力は極めて豊富 ▶ 被爆による人体への影響研究といった知見の蓄積は世界の基準となる程の水準(福島原発事故後、更に注目されている) ▶ 医師養成大学(医学部)が県内に1校しかないが、裏を返せば「オール広島体制」を構築しやすい環境にあると考えられる
課題解決	医師不足 <small>資料編④参照</small>	<ul style="list-style-type: none"> ▶ 20~40歳代の医師(病院勤務医)が特に不足している ▶ 隣県(岡山県)に比し上記の年代医師の県外流出が想起される ▶ 研修医採用数は近年、岡山県が上回っている
	医療資源の偏在 <small>資料編⑤参照</small>	<ul style="list-style-type: none"> ▶ 沿岸部の主要都市に比し、中山間部、島嶼部では医療資源、特に医師を中心とした医療技術系人的資源の不足が顕著 ▶ 広島都市部では、一部の医療(疾患)分野で供給が非効率となっていることが想起される(機能の重複・供給過剰など)

広島県が持つアドバンテージを活かすことで、同時に課題解決も可能となる

具体的提言内容

総論

「医療」をキーワードに、有能な人材・産業・雇用が引き寄せられる、魅力づくり“吸引力の高い核”を二葉の里(広島駅北口)地区に形成する。

二葉の里 東地区(3・4・5街区)を「高度医療&周辺産業ゾーン」と位置付け、具体的なゾーニングを策定した上で再開発を図る。

具体策

3街区に整備が決まっている「高精度放射線治療センター」
「県医師会館」とも連携し、最大の相乗効果を目指す

同地区内に高度医療を担う、国際レベルを目指した医療機関群、いわゆる“メガホスピタル／医療産業クラスター”を段階的に整備する。

メガホスピタル周辺に、医療関連産業(医薬・医療機器)の研究開発部門(企業系R&Dセンター)を誘致し、医療と産業が一体となったシステムを構築する。

国際水準の医療と住居系がセットとなることで、都市の付加価値が高まる

都市部に所在する既存の医療・介護サービス拠点を活用し、事業のリ・モデリングにより、プライマリー・ケアの充実した「住居系施設」を充実させる。

本提言の実現で期待できる効果

強みを梃子に人材が集まり、
人材交流し、産業伸展へ繋がる
『循環サイクル』を作る

産業集積・成長の視点	人材集積・育成の視点	県民受益の視点	資源効率化の視点
<ul style="list-style-type: none"> ■ 医工連携の活性化による成長産業セクターの基盤拡大が図れる ⇒ 雇用増加に直結 ■ 研究開発に不可欠である大規模な臨床・治験施設が常時確保できる ■ 特区適用による規制緩和も組み合わせれば技術の製品化がスムーズになる 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 高度医療(治療)技術を習得、又は活かすべく、国内外から医師を中心とした医療技術系人材が集まる ■ 医薬・医療機器の研究開発力を習得、又は活かすべく、国内外から理系を中心とした優秀な人材が集まる ■ 研究開発・臨床治験・製造が同一地域にあることで人材の定着率が高まる 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 県内の医療サービス水準の向上により、高度医療を選択できる機会が拡大する ■ 全県ベースで医師不足が緩和されることで医師不足地域に再配置ができる 	<ul style="list-style-type: none"> (国際レベルの設備投資を行う拠点病院ができれば) ■ 民間病院やクリニック等も重複した設備投資が不要となる ⇒ 無用な設備投資競争ロスが減る ■ 医師・看護師等の効率的配置が可能になる ■ 過重労働が緩和されることで働く側の満足度が高まり、定着率が向上 ■ 全県ベースで医師不足が緩和されることで医師不足地域に再配置ができる

本提言の実現で期待できる効果（一部再掲）

労働者(医師等の医療系人材)からの視点

- 広島で働けば、医療系を中心に高度な技術習得ができ、かつ経験も豊富に積める場がある

居住者としての視点

- 広島に住めば(アクセスの良い場所で)国際水準の高い医療サービスを受けることができる
⇒ 医療・介護サービス拠点のリ・モデリングにより、身近な地域でのプライマリー・ケアも充実する

資料編
⑥参照

すでに、福岡、神戸、静岡など医療を核とした地域ブランド化では、先行&競合する都市あり
⇒「強み」があるからこそ広島は具体化を急ぐべき

・**県内製造業の高い技術力**
・**「ひろしま」の国際的ネームブランド**
など、**広島県の「強み」を活かした**
永続性のある“地域ブランド化”を目指す

実現後には“広島版ヘルスケア・システム”として新興国などにノウハウを輸出することも視野に置く

本提言の趣旨は、

- ✓ 広島県では、医療分野はコストセンターからプロフィットセンターへと転換できる可能性は高い
- ✓ 単なる広島都市部の病院再編(縮小均衡)や、高度医療機関の建設(箱モノ)構想ではない
- ✓ **都市部だけのメリットや発展ではなく、中長期的には県民全体のメリットにも繋がる。**

本提言を実現する上でのポイント

ハード面(土地活用関連)

- ✓ 対象地域(二葉の里3・4・5街区)の「用地所有者」との連携・役割分担の明確化
- ✓ 対象地域の「開発許認可権者」との連携・役割分担の明確化

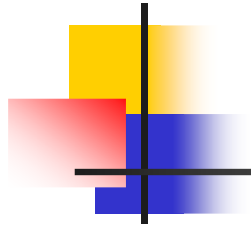
単に基幹4病院の機能再編といった枠組みに止まらず、広島市都市部の医療や関連するサービス(産業)を広く視野に入れた検討が必要

ソフト面(検討組織・時間軸)

- ✓ 『広島らしさ』をどう出し、県民受益に繋げるかといった「総合的なコンセプト」を固める
- ✓ 基幹4病院との調整をはじめ、本構想の具体化を検討する組織を、誰が・どう立ち上げるか
- ✓ 本構想の主要な部分が、事業としての採算が成立するかの検証(F/S)の実施
- ✓ 構想実現(完了)までの時間軸の認識統一 (ex)5年完結構想なのか、又は20年レベルなのか
- ✓ 構想実現後のメガホスピタル等の経営体制(ガバナンス)の検討 ※ハードのみならずヘッドクォーターも一本化

具体化までのコスト面

- ✓ 上記の検討・検証に係るコスト(準備コスト)を誰が、どう負担して進めるのか



~メモ~
